

From. M. Tonomura
Aza Kondo, Kanazakigun
Shigaken Japan

外 村 英 次 殿
カ ン ざ ン 寄 付

PAR AVION
航空郵便

Mr. Eiji, Tonomura
% Mr. S. Nishizawa
755. Pavell st
Vancouver B.C.
Canada



7月10日
封

This space is also for correspondence.

ここに通信文を記載することができます

2/18 菜泡へ、

西沢さん、国良さん、みんなに、よろしくね。
体を大切にしてく、そは、そ下さ、又、色々う
探りも、さかし、下さ、あ、では、また、なう、
アツツマリ

菜泡
↑
M. Tomonura
Kondo,
Japan

カナダ
バンクーバー
外務省
英法殿



AEROGRAMME

M. Eiji, Tomonura
% S. Nishizawa
755. Powell st.
Vancouver B.C.
Canada

PAR AVION
航空

この郵便物には何物も封入又は添附できません
Nothing may be contained in or attached to this letter.

ここに通信文を記載することができます

This space is also for correspondence.

竹中先生、のたう、それ物あすれん、秋にたう
みま、す、学校、の、金、性、に、英、日、の、事、を、活、し
し、を、学、ん、な、す、外、国、に、行、く、人、に、な、ら、う、な、あ、か、ん
と、言、う、こ、と、を、さ、ら、う、れ、る、と、さ、つ、ま、し、た、。

七月十日出の午後、十日たしかに受取ました。毎日暑いのには、きばうそ、居てくれ、ほんとうに、かわつさうです。でも、えゝ氣には、きばうそ居ると、きそ、マコ、わぶらうこんでいます。兄さん、わらは、バワイ、びつゆ子、マ、バクステール、マ、山供にお会い、小保は、ジョージのおちあんと、つと、なつたとの電報が、おて、きん、こちう、でも、おんじました。もうこの、おん、か、そ、ちう、着くまでには、兄さんは、バンクーバーに、つと、色々、英治と、滞して、きせう、まあ、英治、兄さん、を、ち、お、英治、お金の事、色々と、心配、させて、お、實は、今、銀行、八千円、あり、ます、この、七月の、月、は、兄さんが、行くの、に、お金、が、入、つた、を、ち、どり、屋、マ、他の、店、は、少し、も、佛、えて、い、ない、ので、こんど、送、る、くれ、たら、少し、づつ、でも、佛、わん、なら、ん、し、を、して、滋賀、相互、銀行へ、五千、五百、円、の、佛、込、み、を、七、月、中、に、せん、なら、んと、パ、パ、は、言、え、る、い、ます、の、で、そ、ち、う、も、入、る、マ、ろ、う、け、ど、七十、ドル、ほ、ど、送、る、くれ、ん、が、今、滋賀、銀行、に、八千、円、ある、の、を、滋賀、相互、に、佛、ふ、と、英治、が、こんど、送、る、くれ、る、お金、だけ、し、か、ない、ので、す、其、の、送、る、くれ、た、お金、を、あ、ち、う、こ、ち、う、へ、佛、ふ、と、もう、あ、と、何、ん、に、も、の、こ、り、ま、せん、の、で、お、英治、ほん、ま、に、お、り、を、言、ふ、と、こ、ろ、つ、た、な、す、ま、ん、けん、ど、七十、ドル、送、る、な、ち、の、む、よ、又、兄、さん、が、行、つ、た、う、そ、ば、ら、は、ほん、心、配、せん、と、き、ら、う、ま、あ、英治、なる、だけ、早く、た、お、よ、

Room No. 10

July 25 1956

Received from John O. Tomaura

Twenty Five ——— /100 DOLLARS

June 26 to July 25/56 (1 month)

\$25.00



Sam Sun

ここに通信文を記載することができます

This space is also for correspondence.

一本二四程の収入しかないのでね、尼さんや行くに
 つまやも色々な用子や、あつたのど先月には
 ぜんくため、追々と値段がよくなるたうらまた
 よい時もありました。それから、竹中先生のボード
 会社の株の事には、尼さん、たのまわて行きてま
 したのを必ず早くしらべて、あげてトヤ、



英 国 M. Tomomura
 国 Aya. Kondo
 Gokascho Cho.
 Shigaken Japan

カナダニ
 外 村 英 治 殿

Mr. Eiji, Tomomura
 % Mr. S. Kishizawa
 # 755, Powell St
 Vancouver B.C.
 Canada.

PAR AVION
 航空

この郵便物には何物も封入又は添付できません
 Nothing may be contained in or attached to this letter.

そして株の名前がおはあえの名ですが、から先生、
 の名前にかへられたい、やえて、あげてトヤ、
 これだけは、わすれん株に、早く、しとあげてトヤ、
 たのみます、では、又書きます、体に気を付けて
 下す、さよう、
 1/9 英 治

This space is also for correspondence.

ここに通信文を記載することができます

英治へ

其の後はどうしてありますか。毎朝あつのに、そばをこいて
くれるでせう。体を大叩にして、くろして下さい。兄さん
も、この手紙が着く時分には、大分、そちらへ、近よ
ります。英治は、くつをこき付けて、マレなんだ理申
は、實は、兄さん、パスポートを、うしなれたので、お金
が二重に入つたわけだね。實は、三十七日、東京でパスポート
を、もらうて、三十日夜、大塚駅、まで、タクシーにのり、自
動車の中でおそわすられ、あちうこちうとぞがした所、
どうして、わからないの。其のまつ、一日、夜、家車ぞ
横浜に向ひ、横浜より、東京の大使館に行き、
三たび、パスポートを、作る。もらふ程に、多昌林
にたのんだ所、親切にして、くれ、おかげで、三日に、
乗船出来る程になり、色々、其のため、お金
も、入つたのよ。そして、トナリ、やうや、親類、から、銭別
を、もろつたのね。お菓子、バチを、買ふ。や、マシを
おきました。英治が行く時は、銭別を、もらつたや
其の時には、何も、や、して、あ、な、か、た、の、で、二、人、分、を、
いつし、よ、に、サ、マ、し、て、お、つ、た、の、で、四、千、円、余、り、の、り、ま、た、
それ、も、英、治、が、お、送、る、を、く、れ、た、や、う、お、来、た、の、よ、う、に、
兄、さん、が、そ、ち、ら、へ、行、つ、た、ら、何、や、か、マ、く、め、し、く、マ、
た、さ、い、ニ、れ、か、ら、は、こ、ち、ら、の、し、ま、う、を、し、て、マ、リ
マ、す、り、か、ら、や、こ、の、ま、(四月分の月料を送る)を、く、れ
た、の、は、朝、日、高、車、の、則、全、部、佛、ひ、ま、し、た、が、五、月、の
分、の、お、送、る、を、く、れ、た、の、は、兄、さん、の、行、く、の、に、大、か、
入、つ、た、の、を、少、々、は、の、こ、ろ、を、あ、り、ま、す、が、借、金、の、か、た
には、佛、え、な、か、を、け、れ、ど、の、こ、り、一、百、円、は、ち、ん、ど、り
へ、佛、い、こ、も、う、と、思、え、い、ま、す、り、ほ、ん、ま、に、マ、
英、治、苦、勞、さ、し、て、か、わ、い、さ、う、マ、け、ど、が、ま、ん、し、て
ニ、れ、か、ら、は、思、ひ、そ、り、し、ま、う、を、す、る、程、に、極、注、意、
す、る、道、は、變、り、が、多、い、は、こ、の、ご、ろ、安、い、の、を、た、め、よ、

From, M. Tonomura
aza, Kondo,
Gokoshijo, Cho.
Shigoken Japan



外
お菓
紙

Mr. Eiji, Tonomura.
c/o S. Nishizawa.
755. Powell st.
Vancouver B.C.
Canada.

PAR AVION
航空郵便

七月一日

英治(一) 今日、老ちんから手紙来た。老ちんは英治の仕事の
 事に付き、邪氣には心配して居ます。英治が老ちんの所へ、
 軍隊に入隊しようか、どうしようか、と言ふ。相澤澄したでせう。
 老ちんは、長つ十二時間働きて、えろや又は、淋しいか、どち
 ろやで、ママ、パパは、どう思ふかと、言ふ。手紙が来たした。
 英治、どちらにしても、兄さん、今に行くやから、今しばらくの
 車やから、持てて下さい。そして、兄さんが行つたら、二人が相澤し
 て、二人が思ふ様に、したさう。軍隊に入隊しようか、思つたら、
 してよろしい。えろい仕事をしよ。体を、つためてくれたら、親
 は、それが一番、心配です。傍金のうち、兄さんが行つたら、兄さん
 のせきにんを、持て居ます。から、英治一人が心配、せんでよろ
 兄さん、わしが行そ。働く、林に、どうたら。會計は英治にして
 ころふと、言ふ。いる。それで、英治、しつり、して、いよ、

英治、 兄さん、 英治へは、借金をも、佛わす様な心では
 いないわう。心配せんでもよい。ママ、パパも、兄さんには、マヤマヤしく、
 行そ。いさ、兄さん、前とは、大分、かわる。いさ、そして、又、兄さんの、
 わるい所があれば、英治も、兄さんには、言ふのがよい。英治の言ふ事
 は、兄さん、そくよ、とはやく、英治、ガデーナの仕事、えろいのでせう、
 このはなしは、もうこれだけにしておえ、柄で、兄さんには、おに、乗る
 行く船が又、永川丸に変更。いよく、こんばんの、気車で、横浜に
 向ふ事に、なり、今日、その、じゆんびに、おれ、掛る。長子、送り、
 行く人は、ママと、パパと、とりの、良治さんと、三人、です。遠い所、
 あるわう。子供三人、つれては、とて、も、えろいわう。ね、では、兄さんを、送ら
 帰らる。こゝろ、あと、漢字を、書く。すに、し、す。

七月四日

兄さんを、送る。帰る。のは、夏の朝です。大同気船會社の

船は二十九日に出般。でしに、永川丸は、それより、四日、あつた出般。
したるに、そちらえ着くのも少しおそくなり、其の上、ハワヒマ、
シマートルへ、よるらしい、聞て、ソマヤ、ハワヒへ、よるも、こんどは、つゆ子に
何一つ、ことつけて、やれなかつた。英治にも、くつを、こと付けてやる
といふ。ソたのに、それむ、やえなかつた。ほんとに、残念だつた。

スポーツ、シヤツマ、ハンカチ、くつ下は、にむつの中は、はいつもある。それと、
言ふのは、七月三十一日午後三時出般。そのに、旅券が三日その朝で
ない。と、出乗なかつたのが、二日の日と、三日の日の般にのるまで、はしり
まわらしたるが、何一つ、思ふ様に、やえなかつた。兄さんむ、つかれた
でせう、くわしい事は、兄さんに、聞て下さい。兄さんは、横浜からつた

ため、良治さんの兄さんの孝一様、家で一泊させて、ソた、ソたので、
兄さん、そちらえ、着いたら、兄さんの代筆して、れ状を出して
やる。ト、さい、所は、東京都北區中里町三八五、
この所です。

福田彦七様方、
塚本孝一様

(4)

兄さんの行く日は、多分二十一日ごろでせう。船のつく日を、考へて下さる。
たのみまゝです。

治三郎様の所は、つぎの通り、

東京都堀田一ノ十三、

松居織物會社、この所です。治三郎様からは、くつ下

塚本治三郎様、を銭別に奉一様からは、ネクタイを

三本、むろそおそまを、では、又次に

英治！

ママヨリ！